

# 平成30年 新春記者会見次第

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 開催日時 | 平成30年1月10日（水）<br>午前10時30分～ |
| 開催場所 | 市役所202・203会議室              |

## 1. 今年の市政の主な動きについて

- ① 小中学校エアコン整備・・・資料1
- ② コミュニティバス再編・・・資料2
- ③ 防災マップの全面改訂・・・資料3

## 2. 平成30年度当初予算編成方針について・・・資料4

## 3. その他

## ① 小中学校エアコン整備（学校教育課）

近年の気候変動による夏の暑さ・熱中症対策については、大きな課題となっており、小中学校の普通教室へのエアコン設置は、教育環境整備の観点からも全国的に進んできています。

こうした中、本市においても平成 27 年度より普通教室の室温測定を実施してきました。

その結果、平成 28・29 年の 7 月はほとんどの学校の教室で連日 30 度を超えており、文部科学省の示す「学校環境衛生基準」を満たしていない状況です。

こうした状況を踏まえ、児童・生徒の学習環境の改善を図るため、平成 31 年度から順次小中学校の普通教室及び音楽室へエアコン整備をするものです。

### 【整備スケジュール】

- ・平成 30 年度から順次設計に着手し、平成 31 年度の中学校 4 校の設置を皮切りに、平成 33 年度までの 3 か年計画での設置を予定。
  - ・楽田小学校は、改築・改修事業の進捗に合わせて、平成 30 年度から順次設置を予定。
- ※現時点での予定であり、施工条件や国庫補助の採択状況により整備スケジュールの変更もあり得ます。

### 【エアコン設置箇所数】

- 内訳 普通教室 235 教室（小学校 168 教室、中学校 67 教室）  
 音楽室 17 教室（小学校 12 教室、中学校 5 教室）  
 合計 252 教室（小学校 180 教室、中学校 72 教室）

### 【工事費】

|            | 金額             | 備考                     |
|------------|----------------|------------------------|
| 設置工事費      | 618,400,000 円  |                        |
| 国庫補助金（1/3） | △206,132,000 円 | 学校施設環境改善交付金<br>補助率 1/3 |
| 市負担額       | 412,268,000 円  |                        |

※補助金については、随時申請をしていくもので、採択の可否については未定。

### ○熱源の選定

今後都市ガス供給が可能な学校についてはガス方式とし、不可能な学校については電気方式とする。

（理由）

ガス方式は、電気方式と比べ契約形態の見直しによりランニングコストの削減が見込め、設置前と比べ年間約 300 万円の増額で収まる見込みのため。

## ②コミュニティバス再編（地域安全課）

コミュニティバスについて、現在、平成30年11月運行開始を目指し、運行日数の増加、空白地対応など抜本見直しを実施し、再編に向けた検討を進めています。

### 【主な改善点】

#### ○台数の増加

- ・バスを5台から7台へ、2台増車。
- ・7台のうち、3台は現在から引き続き使用、4台（うち2台は11人乗りの小型車両）を購入。

#### ○運行日の増加

- ・路線数を5台8路線から7台7路線に変更。
- ・現行の曜日運行を月から金曜日までの毎日運行に変更。

#### ○バス停の増加

- ・バス停を新たに20箇所増設。

### 【再編による効果】市民の利便性の向上

- ・毎日運行による運行日の増加  
（路線により平日2～4日/週 → 全路線平日5日/週（毎日）、1.4倍）
- ・台数や運行日の増加による便数の増加（310便/週 → 320便/週、1.03倍）
- ・バス停の増加（143箇所 → 162箇所、1.1倍）
- ・交通空白地への運行拡大（11人乗りの小型車両の導入により通行可能）

### 【今後のスケジュール】

- ・今年度中に路線、バス停、ダイヤを決定
- ・平成30年度は、運行事業者を決定後、バスの調達など運行事業者と新運行に向けた準備を進めるとともに市民をはじめ病院、商業施設などへの周知を図り、平成30年11月の運行開始を目指します。

### 【再編の過程も重要視】

○今回の再編では、その過程も重要と考えています。

○主な取り組みは次のとおり。

- 1 再編する上で市民ニーズを把握するため、町内会アンケート（373件）や実際に乗車している方への調査（OD調査（125件））の他、小中学生（3981件）・老人クラブ（50件）・出張所来所者（53件）へのアンケートなどを実施しました。
- 2 様々なアンケートの他、町内会・地域・個人などからの要望も多く寄せられました。それらから、「毎日運行」と「犬山駅と総合犬山中央病院への運行」に対するニーズが高いことが判明しました。

3 今回の再編にあたっては、交通手段について、ゼロベースであらゆる可能性を検討するため、タクシー会社やバス会社、近隣市や社会福祉協議会などを訪問し、運行状況や課題、費用など情報を収集・分析し導入への可能性を検討しました。

4 そうした市民の要望やニーズ、交通手段の検討結果など踏まえ次のとおり方針（ターゲット）を定め、庁内や地域公共交通会議での議論を重ね、これを実現する最適な方法として「バスによる運行」に決定しました。これを元に路線の素案を作成し市民の意見を聴取しブラッシュアップしています。

- ①都市形成軸の構築に資する路線の導入
- ②交通空白地・交通不便地域の減少
- ③運行日数の増加
- ④効率的な運行による運行頻度の増加
- ⑤運行負担金を考慮したサービス提供
- ⑥上記ターゲットの実現による利便性向上

5 市民への意見をお聞きするにあたり、市民への情報提供は重要と考えています。そのため、地域公共交通会議（12月末現在、5回開催）での検討内容を「かわら版」というチラシで開催の都度、全戸に回覧するよう配布し情報提供しています。また、会議内容は市ホームページでも掲載しています。

6 市民への直接の説明の場として、昨年11月7日に市民説明会を開催し、一般の方や町内会長（65人）に説明しました。

7 また、昨年12月10日開催の市町会長会で町会長へ説明するとともに、路線図案を全戸に回覧するよう配布し、町内から意見を徴しています。

#### 【これまでの経緯】

- ・平成12年 7月 本格運行開始（バス1台4路線）
- ・平成19年 1月 再編  
(バス2台7路線、運賃有料化(大人200円、小学生100円/乗車))
- ・平成23年 9月 運賃変更（1乗車200円→1日200円）
- ・平成25年11月 再編（バス5台8路線）

#### 【事業費】

- ・5台8路線から7台7路線にすることで、月々の費用は現行より約104万6千円（別紙⑥）増となります。
- ・今回の再編に伴う経費（バス購入、バス停改修など）は、6,214万7千円（別紙④）となり、バス購入に伴う国庫補助金（地域公共交通確保維持改善事業費補助金(国交省)）は、750万円（別紙⑤）で、公共交通網整備基金の取り崩しも行います。

## 事業費（H29.12月現在/概算）

※この資料は、平成30年度予算ではなく、7台7路線の新運行に係る1年間の事業費を試算し、5台8路線の現行と比較したものです。

- ・この資料は、再編後の事業の1年分の事業費を表示することを目的としています。
- ・平成30年11月1日に再編する場合、年度途中となり、平成30年度予算では、再編前後の費用が混在することになるため使用しません。

### 1 イニシャルコスト（再編に要する費用）

#### 【支出】

| 内容        | 新（7台7路線）      |
|-----------|---------------|
| バス購入費（2台） | 41,978,000円   |
| バス停作製     | 13,511,000円   |
| バス内音声案内等  | 4,342,000円    |
| その他路線図印刷等 | 2,316,000円    |
| 計①        | ④ 62,147,000円 |

#### 【収入】

| 内容              | 新（7台7路線）     |
|-----------------|--------------|
| バス購入に対する補助金（2台） | ⑤ 7,500,000円 |
| 公共交通網整備基金繰入金    | 31,000,000円  |
| 計②              | 38,500,000円  |

### 2 ランニングコスト（運行に係る費用）

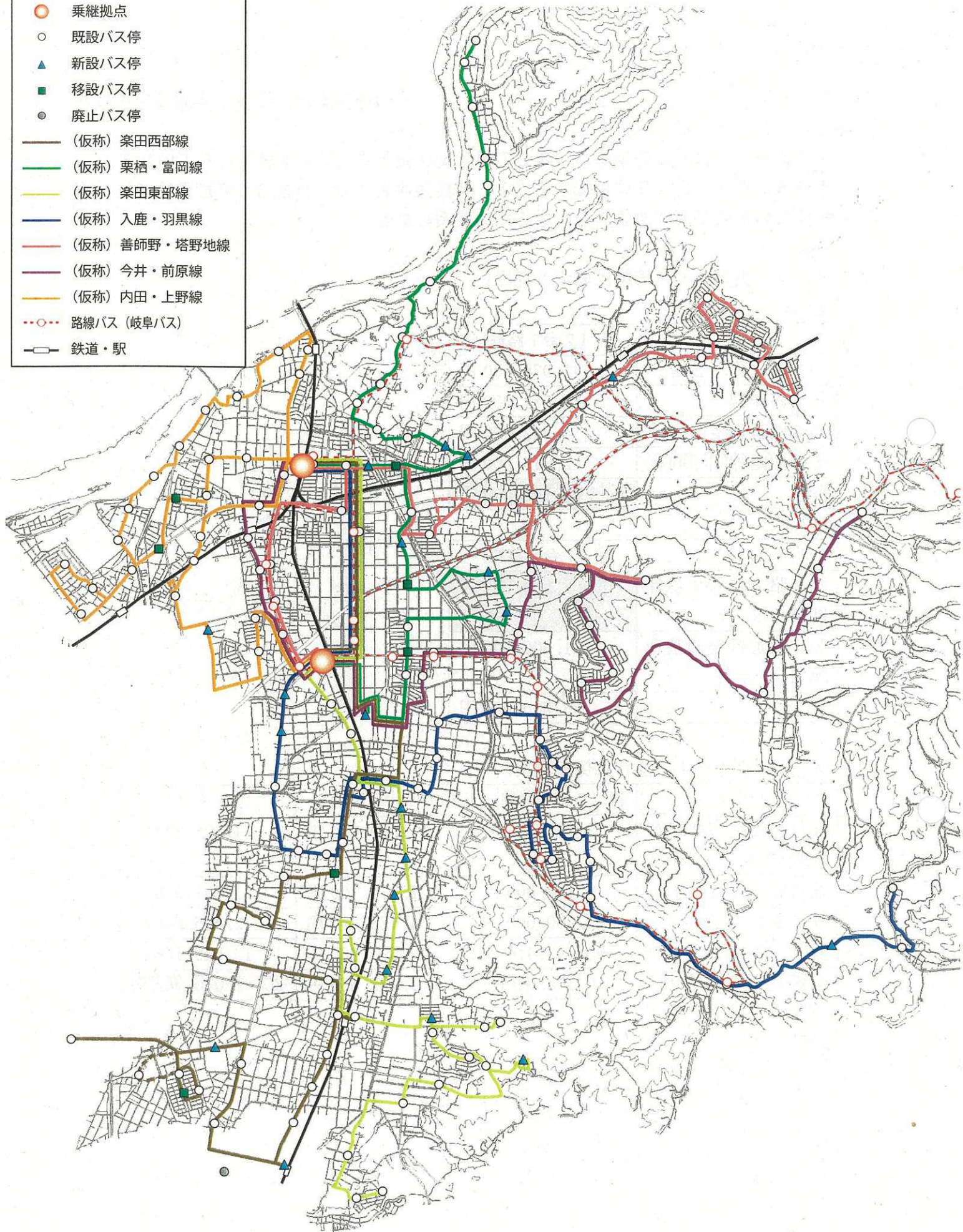
| 内容                       | 新（7台7路線）    | 旧（5台8路線）    | 差し引き         |
|--------------------------|-------------|-------------|--------------|
| 運行負担金基準額A<br>（運行事業者への支払） | 73,315,416円 | 61,689,600円 | 11,625,816円  |
| 運賃収入見込額B                 | 9,172,000円  | 7,670,100円  | 1,501,900円   |
| 補助金C                     | 2,000,000円  | 4,425,240円  | △2,425,240円  |
| 計③ A - (B + C)           | 62,143,416円 | 49,594,260円 | 12,549,156円  |
| 月額(③÷12か月)               | 5,178,618円  | 4,132,855円  | ⑥ 1,045,763円 |

### 3 市費

| 内容      | 新（7台7路線）     |
|---------|--------------|
| 支出(①+③) | 124,290,416円 |
| 収入(②)   | 38,500,000円  |
| 差し引き    | 85,790,416円  |

# 凡例

- 乗継拠点
- 既設バス停
- ▲ 新設バス停
- 移設バス停
- 廃止バス停
- (仮称) 楽田西部線
- (仮称) 栗栖・富岡線
- (仮称) 楽田東部線
- (仮称) 入鹿・羽黒線
- (仮称) 善師野・塔野地線
- (仮称) 今井・前原線
- (仮称) 内田・上野線
- 路線バス (岐阜バス)
- 〇 — 鉄道・駅



### ③ 防災マップの全面改訂（地域安全課）

#### 【気象に関する近年の傾向】

- 近年では雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しています。今後、地球温暖化に伴う気候変動により、7月、8月の豪雨のような極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が高いといえます。
- こうした気候変動により、巨大積乱雲や竜巻といった気象現象にも注目が集まるようになっていきます。
- 地震についても、南海トラフを震源とする巨大地震は周期的に起きることが分かっており、市としても備蓄や資機材の整備の推進、総合防災訓練の実施、地域における訓練のサポートなど、様々な対策を進めているところです。

#### 【現行の防災マップについて】

- 直近で作成した防災マップは平成24年度に作成したものであり、その後、そのマップとは別に、新たに指定された土砂災害警戒区域などを周知するため、市内を13地区に分け、A3サイズの地図として作成、配付しています。

#### 【作成予定の防災マップについて】

- 最新の危険箇所や避難場所を示した地図はもちろん、災害の種類に応じた対応方法、家庭における備え、避難の心構え、また女性や障害を持つ方、外国人など、多様な視点での防災を取り入れた「防災ハンドブック」と呼べるものを冊子の形で作成する予定です。

#### 【新しい防災マップのねらい】

- 市民の命を守るためには、市がすべき防災対策をしっかりと行うことと同時に、市民自らが、周囲で生じている状況や知り得た情報から判断して、主体的に命を守る行動を取ることが大切です。
- そのためには、自分が住んでいる場所等に関する災害リスク、地形等を踏まえた災害ごとの適切な避難行動を知ること、自然災害に対する「心構え」を持つことが重要であると考えます。
- 市民一人一人が自然災害に対する「心構え」と「知識」を備え、いざというときには、避難情報だけでなく、自らが知り得た情報を基に、自ら考え適切に行動できるようにするため、きめ細やかな防災情報提供の一環として新しい防災マップを作成し、犬山市の防災力向上を図っていきます。

## 【新しい防災マップの概要】

### ○形状等

- ・ 30 ページ程度の冊子＋地図
- ・ 冊子で防災に関する総合的な知識・情報をお知らせし、いつでも手にとって見てもらえるものにする。
- ・ 地図の部分は差し替えが可能なように、冊子とは別体で折り込むことにすることで、地図部分だけのアップデートに対応できるようにする。
- ・ 平成29年度で愛知県が実施した土砂災害警戒区域の調査が完了。最新の情報を伝える。
- ・ 平成30年度に整備課で内水浸水シミュレーションを実施予定であるため、その結果についても地図を追加して対応予定。

### ○予算

7,700 千円

### ○配付

全戸配付



平成29年9月22日

各部局長 様

山田 拓郎

## 平成30年度当初予算編成方針について（通知）

当市の財政状況については、今年度各課が提出した実施計画事業（平成30～33年度）に基づき、今後4年間の財政シミュレーション（資料2）を作成しましたので、十分ご確認いただきたいと思っております。なぜなら、このシミュレーションは、我々が直面するであろう犬山市の未来を数値化したものだからです。各年度とも歳出が超過し、予断を許さない状況ですが、単に課題を先送りするだけにならないよう、事業選択と優先順位付けを厳格に行い、予算編成を進めていかなければなりません。ついては、引き続き「産業が栄え 幸福が実感できる犬山」を目指し、次の事業を軸として平成30年度の予算編成を目指すこととします。

- ① 総合計画に基づく都市計画の推進（市街化区域内における低未利用地の活性化など）
- ② 安全安心まちづくりの推進（防災マップ・ハザードマップの作成、Jアラート受信機の改修、大規模盛土造成地の調査、AEDの配備拡充など）
- ③ 就学環境の改善（楽田小学校の改修、施設整備計画に基づく各小学校のトイレ改修など）
- ④ 地域を結ぶコミュニティバスの充実（利便性の強化により満足度のアップ）
- ⑤ 地方創生に呼応する事業の推進（人材バンクの構築、活躍の場づくり事業など）
- ⑥ 少子高齢化等により社会保障費が増大する中での充実した福祉施策の堅持（国民健康保険広域化に伴う保険料負担の激変緩和、現行サービス水準の維持）
- ⑦ 懸案事項への取り組み（広域ごみ処理事業の推進、施設予約システムの構築、都市計画道路の整備、橋梁長寿命化、養護老人ホームの民営化など）
- ⑧ ファシリティマネジメントの推進（福祉会館、フロイデ、楽田出張所など）
- ⑨ 財源確保（企業立地の促進、ふるさと犬山応援寄附金の獲得、不要財産の売却など）

予算編成に向けて、以下の点に留意の上で進めてください。

- ・ 創意工夫による市民サービスの利便性・効率性・付加価値の向上
- ・ 業務の総点検、総見直し（事業や事務のあるべき姿の再検証、先進自治体や民間との比較など）
- ・ 事業効果と市民の信頼を高めるための見せ方・伝え方の工夫
- ・ 資産の処分と活用（シェアリングエコノミーを含む）を創意工夫することで、新たな財源確保や資産の有効活用に向け全職員が積極的に取り組むこと
- ・ 平成30年度当初予算への計上を予定していない事業にあっても、事業化に向け、着実に進捗を図ること（道の駅、カーボンマネジメントなど）